

| | | |
|--|-------------|-----|
| 科目名称： | 造形表現指導法 I | |
| 担当者名： | 森田 ゆかり、太田 望 | |
| 区分 | 授業形態 | 単位数 |
| 専門教育科目 | 演習 | 1 |
| 授業の目的・テーマ | | |
| ◎ 造形活動を通して子ども・他者への理解を深める。 ・造形活動における全般的な発達・道筋を踏まえた上で、個々の「表現」や「思い」を読みとり受容できるよう「みかた」「考え方」を養う。 ・実践の場で子ども・親子・利用者などの活動を支援するため、年齢や実態に即した活動内容・環境・対応などを考える。 ・造形活動を通して人と関わる面白さ、協働する喜びなどを知る。 ・「3つのD」のサイクルの中で学び、環境構成、コミュニケーション、支援の力を身につける。 | | |
| 授業の達成目標・到達目標 | | |
| ・表現の手段や方法を対象者・場・ねらいに即して考えられる。(デザイン) ・環境構成力(用具の整備を含む)が身につけている。(デザイン) ・調べ学習や研究、制作に対して主体的・計画的に取り組むことができる。 ・「保育」の見方・考え方が広がり、造形活動の意義を理解できる。 | | |

| 幼児教育学科 | ディプロマポリシー (卒業認定・学位授与の方針) | 重点項目 |
|--------|---|------|
| DP (1) | 建学の精神と設立の理念を基に、基礎知識を修め、子ども・保護者・地域住民に信頼され、多様な文化に対応できる幅広い教養が身につけている。 | |
| DP (2) | 優れた専門知識や技能を修得し、他者と協調・協働し、社会の一員として、保育・幼児教育の分野において貢献できる使命感、倫理観、責任感、実践力を身につけている。 | |
| DP (3) | 幼児教育の学びを通して多様な社会に対応できるような豊かな人間性を養い、人との関わりの中で自己の考えを的確に表現するとともに、他者の意見を尊重し良好な信頼関係を築いていくことができる。 | |
| DP (4) | 学生一人ひとりが、演習、実習などを通して様々な課題に取り組み解決する学修経験を重ねることで、その場に応じた活用力が身につけている。 | ○ |

| 評価方法/ディプロマポリシー | 定期試験 | クイズ 小テスト | 提出課題 (レポート含む) | その他 | 合計 |
|----------------|------|-------------|------------------|-----|-----|
| 幼児教育DP (1) | | | | | 0 |
| 幼児教育DP (2) | | | | | 0 |
| 幼児教育DP (3) | | | | | 0 |
| 幼児教育DP (4) | | | 60 | 40 | 100 |
| | | | | | 100 |

| 実務経験のある教員の担当 | 担当教員の实務経験の内容 (内容・経験年数を記載) | |
|--------------|---|----------------|
| あり | 《内容1》 森田 アートスクール講師 (2歳児～小学生の絵画・造形指導) | 《経験年数1》 2年6か月 |
| | 《内容2》 森田 アートディレクター (こども対象のワークショップなど企画・実践) | 《経験年数2》 4年10か月 |
| | 《内容3》 | 《経験年数3》 |
| | 《内容4》 | 《経験年数4》 |

| 評価ルーブリック | すばらしい | とてもよい | よい | 要努力 |
|---------------------------|---|--------------------------------------|------------------------------|---------------------------------|
| デザイン（指導案作成） | 多様なこどもの姿をイメージし、こどもが主体性を発揮し、遊びが展開するよう工夫している。 | 具体的なこどもの姿をイメージし、興味・関心を引き出せるよう工夫している。 | 具体的なこどもの姿をイメージし作成している。 | こどもの姿がイメージできていない。作成にあまり参加していない。 |
| 主体的・計画的取り組み | 授業の目標を理解し期待以上の主体的な学修が見られる。 | 授業の目標を理解し主体的・計画的に取り組んでいる。 | 授業の目標を理解し主体的・計画的に取り組もうとしている。 | 授業の目標を理解しているが主体的・計画的に取り組めない。 |
| ディスコース（グループワーク・プレゼンテーション） | 他者の考えを尊重し、自分の考えを他者が納得できるように伝えることができる。 | 他者の考えを尊重し、自分の考えを論理立てて伝えることができる。 | 他者の考えを尊重し、自分の考えも伝えることができる。 | 自分の考えが他者に伝わらない。活動にあまり参加していない。 |
| | | | | |

| 授業の内容・計画 | 事前事後学修の内容 | 事前事後学修時間（分） |
|---|--------------------------------------|-------------|
| 第1回 「新しい集団・新しい人間関係」に対する気持ちの確認（グループワーク、ディスコース） | 『KINJO特化美術表現 実践のまとめ 第14号』を読んでおく。 | 30分 |
| 第2回 レッジョ・エミリアの幼児教育から学ぶ① VTR 『レッジョエミリア市の挑戦』 | 『美育文化ポケット 第21号～24号』に目を通しておく。 | 30分 |
| 第3回 「特化造形表現」のねらい・構成・年間計画、『実践のまとめ』バックナンバーから学ぶ | 『KINJO特化美術表現 実践のまとめ 第14号』を読んでおく。 | 60分 |
| 第4回 レッジョ・エミリアの幼児教育から学ぶ② 「ドキュメンテーション」「3つのD」 | 第2回の授業内容を復習。 | 20分 |
| 第5回 他大学の学生と交流授業① グループワーク・対話による鑑賞（電子黒板使用） | 『KINJO特化美術表現 実践のまとめ』バックナンバーを読んでおく。 | 20分 |
| 第6回 他大学の学生と交流授業① グループワーク・対話による鑑賞（電子黒板使用） | 『KINJO特化美術表現 実践のまとめ』バックナンバーを読んでおく。 | 20分 |
| 第7回 指導案を書く① 教材研究をもとに2,3,4,5歳児の活動を考える（グループワーク） | 指導案を書くために必要な資料などを準備し復習。 | 30分 |
| 第8回 指導案を書く② 教材研究をもとに2,3,4,5歳児の活動を考える（グループワーク） | 「保育内容表現Aの指導法」の指導案に関するワークシート・資料を読み復習。 | 30分 |
| 第9回 指導案を書く③ 教材研究をもとに検討（グループワーク） | 「造形教材研究」のワークシートを整理しておく。 | 20分 |
| 第10回 指導案を書く④ プレゼンテーション・共有 | 指導案作成の要点（工夫・留意点など）を発表できるように準備。 | 20分 |
| 第11回 指導案を書く⑤ プレゼンテーション・共有 | 指導案作成の要点（工夫・留意点など）を発表できるように準備。 | 20分 |
| 第12回 オープンキャンパス「高校生の体験授業」計画（グループワーク、ディスコース） | 該当するワークシートを読み復習。 | 15分 |
| 第13回 オープンキャンパス「高校生の体験授業」準備 | 第12回の授業内容を復習。 | 15分 |
| 第14回 オープンキャンパス「高校生の体験授業」 | 実習での学びをもとに各自の目的・目標を考えておく。 | 15分 |
| 第15回 オープンキャンパス「高校生の体験授業」 | 実習での学びをもとに各自の目的・目標を考えておく。 | 15分 |

事前事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め短期大学設置基準で規定された学修時間が必要である。また、事前事後学修としては、上記内容以外に次回までの小レポートをまとめることになる。

成績評価の方法・基準

定期試験は、実施しない。その他の評価配分は、以下のとおりである。
指導案40%、プレゼンテーション10%、授業への積極的関与30%、ワークシート20%（毎回配付されるワークシートを授業内で各自作成し提出）

課題に対するフィードバック

「ドキュメンテーション」をもとに、グループで「ディスコース」（必要に応じて全体で「ディスコース」）し、次の活動を「デザイン」する授業を行っている（レッジョ・エミリアの「3つのD」 KINJO特化造形表現モデル）。

教科書・参考書

教科書：『美育文化ポケット 第21号～第24号』 公益財団法人美育文化協会、
参考書：『KINJO特化美術表現 実践のまとめ』バックナンバー、『これで安心！保育指導案の書き方』開仁志編著 北大路書房、必要に応じてプリント配付